

# 安全データシート(SDS)

## MEK(メチルエチルケトン)

作成日2015年12月10日

改訂日2016年9月7日

改訂日2018年3月22日

### 1. 化学品及び会社情報

化学物質等の名称:	メチルエチルケトン
会社名:	新日本化学工業株式会社
住所:	千葉県香取郡多古町十余三385-140
電話番号:	0479-75-2791
緊急時の電話番号:	0479-75-2791
FAX番号:	0479-75-2796
推奨用途及び使用上の制限:	塗料用及びインキ希釈用及び洗浄用

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

物理化学的危険性	爆発物	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	区分2
	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	区分外
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	分類できない
	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
健康に対する有害性	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(経皮)	区分外
	急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
	急性毒性(吸入:蒸気)	区分4
	急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	分類対象外(粉じん)
	急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	分類できない(ミスト)
	皮膚腐食性・刺激性	区分2
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2A
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない	
特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分2(腎臓)	
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	区分3(気道刺激性、麻酔作用)	
特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	区分1(神経系)	
環境に対する有害性	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境急性有害性	区分外
	水生環境慢性有害性	区分外
	オゾン層への有害性	分類できない

#### ラベル要素

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:  
危険有害性情報:

危険  
引火性の高い液体及び蒸気  
吸入すると有害  
皮膚刺激  
強い眼刺激  
呼吸器への刺激のおそれ  
眠気やめまいのおそれ  
腎臓の障害のおそれ  
長期にわたる又は反復ばく露による神経系の障害

注意書き:

【安全対策】

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。-禁煙。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。静電気放電や火花による引火を防止すること。

保護手袋、保護眼鏡、保護面を着用すること。  
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。  
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。

【応急措置】

火災の場合には適切な消火方法をとること。  
吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

吐かせないこと。

眼に入った場合: 水で数分間、注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合には外して洗うこと。

皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹼で洗うこと。

皮膚(又は毛髪)に付着した場合: 直ちに、すべての汚染された衣類を脱ぐこと、取り除くこと。

汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。

ばく露又はその懸念がある場合: 医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合: 直ちに医師の診断、手当てを受けること。

【保管】

容器を密閉して涼しく換気の良いところで施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

国/地域情報:

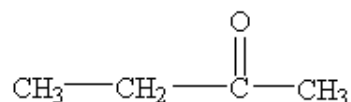
情報なし

### 3. 組成及び成分情報

#### 物質

化学名又は一般名: メチルエチルケトン(Methyl ethyl ketone)  
別名: 2-ブタンオン (2-Butanone)  
エチルメチルケトン(MEK)  
化学式: C<sub>4</sub>H<sub>8</sub>O  
化学特性: methyl ethyl ketone

(化学式又は構造式):



CAS番号:

78-93-3

官報公示整理番号	化審法 (2)-542
(化審法・安衛法):	安衛法 既存
分類に寄与する不純物及び安定化添加物:	情報なし
濃度又は濃度範囲:	99%以上

#### 4. 応急措置

吸入した場合:	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。  気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。 特別処置(緊急の処置が必要な場合、補足の応急処置指示を参照)。
皮膚に付着した場合:	皮膚を速やかに洗浄すること。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する前に洗濯すること。 医師に連絡すること。 皮膚刺激が生じた場合、気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。  特別処置(緊急の処置が必要な場合、補足の応急処置指示を参照)。
目に入った場合:	水で数分間、注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  目の刺激が持続する場合、気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。  特別処置(緊急の処置が必要な場合、補足の応急処置指示を参照)。
飲み込んだ場合:	医師に連絡すること。 気分が悪い時は、医師の手当て、診断を受けること。 口をすすぐこと。 特別処置(緊急の処置が必要な場合、補足の応急処置指示を参照)。
予想される急性症状及び遅発性症状:	吸入による呼吸器官への刺激、咳、息切れ。 飲込みによる胃腸の刺激、吐き気、嘔吐、下痢。 接触による皮膚の刺激と脱脂及び眼の刺激、発赤、痛み。
最も重要な兆候及び症状: 医師に対する特別注意事項:	過度のばく露で麻酔作用、頭痛、めまい、視野狭窄、吐き気、下痢及び意識喪失。 症状は遅れて発現することがあり、過剰にばく露したときは医学的な経過観察が必要である。

#### 5. 火災時の措置

消火剤:	小火災: 二酸化炭素、粉末消火剤、散水、耐アルコール性泡消火剤  大火災: 散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤 棒状注水
使ってはならない消火剤: 特有の危険有害性:	極めて燃え易い、熱、火花、火炎で容易に発火する。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法:	引火性の高い液体及び蒸気 散水によって逆に火災が広がるおそれがある場合には、上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を利用すること。  引火点が極めて低い: 散水以外の消火剤で消火の効果がない大きな火災の場合には散水する。  危険でなければ火災区域から容器を移動する。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。
消火を行う者の保護:	消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

#### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。  直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。  関係者以外の立入りを禁止する。
------------------------	--

作業者は適切な保護具(「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。

適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。

漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。

風上に留まる。

低地から離れる。

密閉された場所に立入る前に換気する。

河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。

**環境に対する注意事項:**

環境中に放出してはならない。

**回収、中和:**

少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。

少量の場合、吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。

大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。

大量の場合、散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。

**封じ込め及び浄化の方法・機材:**

危険でなければ漏れを止める。

漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。

蒸気抑制泡は蒸発濃度を低下させるために用いる。

**二次災害の防止策:**

すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火災の禁止)。

排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

**7. 取扱い及び保管上の注意**

**取扱い**

**技術的対策:**

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

**局所排気・全体換気:**

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。

**安全取扱い注意事項:**

周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。

容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

取扱い後はよく手を洗うこと。

ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

眼との接触を避けること。

接触、吸入又は飲み込まないこと。

屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。

**接触回避:**

「10. 安定性及び反応性」を参照。

**保管**

**技術的対策:**

保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はり不燃材料で作ること。

保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。

保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。

保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設けること。

保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。

**保管条件:**

熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。-禁煙。

酸化剤から離して保管する。

容器は直射日光や火気を避けること。

容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。

施錠して保管すること。

**混触危険物質:**

「10. 安定性及び反応性」を参照。

容器包装材料:

消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度:	200ppm
許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標):	
日本産業衛生学会(2015年版)	200ppm 590mg/m <sup>3</sup>
ACGIH(2012年版)	TLV-TWA 200ppm BEI STEL 300ppm BEI
設備対策:	製造業者が指定する防爆の電気・換気・照明機器を使用すること。  静電気放電に対する予防措置を講ずること。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。  空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行なうこと。  高熱工程でミストが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度以下に保つために換気装置を設置する。
保護具	
呼吸用保護具:	有機ガス用防毒マスク、送気マスク、空気呼吸器、酸素呼吸器
手の保護具:	耐薬品性保護手袋、耐油性保護手袋
眼の保護具:	ゴーグル型保護眼鏡、防災面
皮膚及び身体の保護具:	耐油性保護長靴、耐油性保護前掛

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状態、形状、色など:	無色液体 <sup>14)</sup>
臭い:	特徴的な臭気 <sup>14)</sup>
pH:	データなし
融点・凝固点:	-86°C(融点) <sup>14)</sup>
沸点、初留点及び沸騰範囲:	80°C(沸点) <sup>14)</sup>
引火点:	-9°C(密閉式) <sup>14)</sup>
爆発範囲:	下限 1.8 vol%、上限 11.5 vol% <sup>14)</sup>
蒸気圧:	10.5kPa (20°C) <sup>14)</sup>
蒸気密度(空気 = 1):	2.41 <sup>14)</sup>
比重(密度):	0.805 (20°C/4°C) <sup>2)</sup>
溶解度:	29g/100mL (20°C)(水) <sup>14)</sup> アルコール、ベンゼン、エーテルに可溶 <sup>2)</sup>
オクタノール/水分配係数:	log Pow = 0.29 <sup>14)</sup>
自然発火温度:	505°C <sup>14)</sup>
分解温度:	データなし
臭いのしきい(閾)値	データなし
蒸発速度(酢酸ブチル = 1):	データなし
燃焼性(固体、ガス):	該当しない
粘度:	0.40mPa·s (20°C) <sup>48)</sup>

## 10. 安定性及び反応性

安定性:	通常の実験では安定である。
危険有害反応可能性:	強酸化剤(硝酸等)と激しく反応して発火する恐れがある。 アルカリ類、アミン類、アルデヒド類、アンモニア等と反応する。
避けるべき条件:	加熱、静電気放電
混触危険物質:	酸化剤、塩基性物質、還元剤。
危険有害な分解生成物:	情報なし
その他:	引火性の強い液体である。 蒸気は空気と混合すると爆発性混合ガスになる。

蒸気は空気より重いので低いところに滞留し、爆発性混合ガスを作りやすい。  
長期保管では爆発性の混合物をつくる恐れがある。

## 11. 有害性情報

### 急性毒性:

- ・経口 ラットのLD50値として、2,737mg/kg(環境省リスク評価第6巻(2008)、IRIS TR(2003)、ATSDR(1992))、5,522mg/kg(PATTY(6th, 2012)、IRIS TR(2003)、ACGIH(7th, 2001)、ATSDR(1992)、EHC 143(1992))、2,000-6,000mg/kg(DFGOT vol. 12(1999)、EHC 143(1993))、2,600-5,400mg/kg(SIDS(2011))との報告に基づき、「区分外」とした。
- ・経皮 ウサギのLD50値として、>5,000mg/kg(PATTY(6th, 2012))、6,480mg/kg(環境省リスク評価第6巻(2008))、>8,000mg/kg(PATTY(6th, 2012)、DFGOT vol. 12(1999)、EHC 143(1993)、ATSDR(1992))、6,400-8,000mg/kg(SIDS(2011))、13,000mg/kg(PATTY(6th, 2012))との報告に基づき、「区分外」とした。
- ・吸入 <ガス>GHSの定義における液体である。  
<蒸気>ラットのLC50値(4時間)として、11,700ppmとの報告(PATTY(6th, 2012)、IRIS TR(2003)、EHC 143(1993)、ATSDR(1992))に基づき、「区分4」とした。  
  
<粉じん、ミスト>データ不足

### 皮膚腐食性・刺激性:

本物質をウサギの皮膚に適用した結果、軽度から中等度の刺激性ありとの報告や(SIDS(2011)、EHC 143(1993)、DFGOT vol. 12(1999))、軽度の刺激性ありとの報告がある(EHC 143(1993)、DFGOT vol. 12(1999))、PATTY(6th, 2012)、ATSDR(1992))。また、ヒトでは、ばく露による刺激性はみられなかったとの報告がある(PATTY(6th, 2012))。以上、ウサギの「中等度の刺激」に基づき「区分2」とした。

皮膚刺激(区分2)

### 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性:

本物質をウサギの眼に適用した結果、重度の刺激性がみられたとの報告があり(SIDS(2011)、EHC 143(1993)、DFGOT vol. 12(1999))、角膜障害や強膜の出血、瞼の浮腫、化学火傷がみられたとの報告がある(EHC 143(1993))。その他に、ウサギへの適用試験において、24時間後の評点の平均値は角膜混濁2.5、結膜発赤2であったが、7日以内にほぼ回復していたとの報告や(ECETOC TR48(1992))、軽度の刺激性ありとの報告がある(EHC 143(1992)、DFGOT vol. 12(1999)、PATTY(6th, 2012)、ATSDR(1992))。ヒトでは、本物質のばく露により刺激性がみられたとの報告(PATTY(6th, 2012))、刺激性がみられなかったとの報告の両方がある(PATTY(6th, 2012))。以上、「重度の刺激」に基づき「区分2A」とした。なお、本物質はEU DSD分類において「Xi;R36」、EU CLP分類において「Eye Irrit.2H319」に分類されている。

強い眼刺激(区分2A)

### 呼吸器感作性又は皮膚感作性: データ不足

### 生殖細胞変異原性:

in vivoでは、マウス及びチャイニーズハムスター骨髄細胞の小核試験で陰性である(環境省リスク評価第6巻(2008)、SIDS(2011)、EHC 143(1993)、IRIS TR(2003)、PATTY(6th, 2012)、DFGOT vol. 12(1999))。In vitroでは、細菌の復帰突然変異試験、哺乳類培養細胞の遺伝子突然変異試験、染色体異常試験で陰性である(NTP DB(Access on October2014)、IRIS TR(2003)、環境省リスク評価第6巻(2008)、ACGIH(7th, 2001)、SIDS(2011)、EHC 143(1993)、PATTY(6th, 2012))。ガイダンスの改訂により区分外が選択できなくなった為、「分類できない」とした。

### 発がん性:

EPAでI(inadequate)に分類されている(IRIS(2003))ことから、「分類できない」とした。

### 生殖毒性:

ラットを用いた吸入経路での催奇形性試験において、母動物に影響(体重増加抑制)のみられる容量(3,000ppm)においても胎児に対してわずかな影響(骨化遅延、過剰肋骨)がみられたのみで、奇形はみられていないとの報告がある(PATTY(6th, 2012)、SIDS(2011)、環境リスク評価第6巻(2008)、IRIS(2003)、ACGIH(7th, 2001)、DFGOT vol. 12(1999))。また、マウスを用いた吸入経路での催奇形性試験において、母動物毒性(肝臓の相対重量増加、腎臓の相対重量増加)がみられる用量(3,000ppm)において胎児にわずかな影響(胎児体重減少)がみられたが有意な奇形の発生はみられていないとの報告がある(PATTY(6th, 2012)、SIDS(2011)、環境省リスク評価第6巻(2008)、IRIS(2003)、ACGIH(7th, 2001)、DFGOT vol. 12(1999))。以上、催奇形性はみられていないが、生殖能に関する試験の報告がないことから、「分類できない」とした。

<b>特定標的臓器・全身毒性</b>	本物質は気道刺激性及び麻酔作用がある(環境省リスク評価第6巻(2008)、ACGIH(7th, 2001)、ATSDR(1992))。ヒトにおいては、吸入ばく露で、頭痛、めまい、悪心、嘔吐、運動失調、眼のかすみ、ふらつき、過呼吸、眩暈、中枢神経系抑制作用、代謝性アシドーシス、意識喪失、経口摂取では意識喪失の報告がある(PATY(6th, 2012)、環境省リスク評価第6巻(2008)、HSDB(Access on September2014)、ACGIH(7th, 2001)、ATSDR(1992)、EHC 143(1993)、IRIS TR(2003))。実験動物では、麻酔作用、ラットの経口投与1,080mg/kgで腎臓の軽度の腎尿管壊死が認められている(ACGIH(7th, 2001)、ATSDR(1992)、EHC 143(1993)、PATY(6th, 2012)、IRIS TR(2003)、HSDB(Access on September2014))。ラットの腎臓への影響は区分2の範囲の用量で認められた。本物質は腎臓への影響、並びに気道刺激性、麻酔作用を有すると考えられる。以上より「区分2(腎臓)」「区分3(気道刺激性、麻酔作用)」とした。
<b>(単回ばく露):</b>	
<b>特定標的臓器・全身毒性</b>	ヒトでは本物質以外に他の溶媒へのばく露を含まない有害性知見として、慢性的な職業ばく露により、ニューロパシー(神経症)との診断には至らないが、神経伝達速度の低下がみられたとするイタリアでの報告、及び手指と腕の無感覚感を訴えた米国工場作業員の例が報告されており(EHC 143(1993)、DFGOT vol. 12(1999))、これらの職業ばく露事例の知見より初期には本物質の反復ばく露影響として、ヒトで神経系障害の発生が懸念された。一方、IRISは関連する症例報告及び疫学研究結果は、ばく露の状況が明確でないこと、他の物質の混合ばく露であることなど問題があり、職場での本物質への反復ばく露が慢性的な神経障害の危険性を増加させるとの証拠は限定的で不確実であると結論している(IRIS TR(2003))。しかし、ACGIHは上気道への刺激のみならず、本物質又は本物質を含む溶媒への吸入ばく露による中枢及び末梢神経系への有害性影響を回避することを目的に本物質のTLV値を設定しており(ACGIH(7th, 2001))、本物質の単独又は他の溶剤との複合反復ばく露による影響として、神経系障害の発生を否定する強固な証拠は依然としてないと考えられている。一方、実験動物ではラットに本物質蒸気を5,000ppm(14.7mg/L: 1ppm=2.91mg/m <sup>3</sup> (ACGIH(7th, 2001))で、90日間吸入ばく露したが、体重増加抑制、肝臓の重量増加(生体適応反応と考えられた)以外に、一般毒性学影響、神経毒性影響ともみられていない(SIDS(2011)、EHC 143(1993)、IRIS TR(2003)、環境省リスク評価第6巻(2008))。この他、神経毒性の有無を検討したラットでの複数の吸入ばく露試験において、いずれも神経毒性は陰性の結果を示し(SIDS(2011))、本物質はn-ヘキサンのようにジケトン代謝物(直接的な神経毒性物質)を生成しない為、神経毒性を生じないと考察されている(SIDS(2011))。以上、ヒトで本物質の単独又は他の溶剤との複合反復ばく露により、中枢及び末梢神経系への有害性影響が生じる懸念は依然として持続していると考えられた為、「区分1(神経系)」とした。
<b>(反復ばく露):</b>	
<b>吸引性呼吸器有害性:</b>	13を超えない炭素原子で構成されたケトンで、動粘性率が0.50mm <sup>2</sup> /sec(25°C、GERI計算値)であり、区分2に該当するため、現行分類ガイダンスに従い「分類できない」とした。
<b>その他:</b>	MEKは無側鎖の脂肪族C6化合物(メチル-n-ブチルケトン、n-ヘキサン、2,5-ヘキサジオン)の神経毒性及びハロアルカン類(四塩化炭素、トリクロロメタン)の肝臓、腎臓毒性を高める作用がある。

## 12. 環境影響情報

<b>生態毒性:</b>	
<b>魚類</b>	ニジマス LC50(96hr) > 100mg/L (環境庁生態影響試験、1996; 環境省リスク評価第6巻、2008)
<b>甲殻類</b>	オオミジンコ LC50(48hr) > 1000mg/L (環境庁生態影響試験、1996; 環境省リスク評価第6巻、2008)
<b>藻類</b>	Pseudokirchneriella subcapitata ErC50(72hr) > 1200mg/L (環境庁生態影響試験、1996; 環境省リスク評価第6巻、2008) Pseudokirchneriella subcapitata NOEC(72hr) = 93mg/L (環境庁生態影響試験、1996; 環境省リスク評価第6巻、2008)
<b>残留性・分解性:</b>	急速分解性がある(20日後のBOD分解度=89% (SIDS, 2011)) 難水溶性ではない(水溶解度=223000mg/L (PHYSPROP Database, 2009))
<b>生体蓄積性:</b>	データなし
<b>土壌中の移動性:</b>	データなし
<b>オゾン層への有害性:</b>	データなし
<b>水生環境有害性(急性):</b>	上記の結果より、「区分外」とした。
<b>水生環境有害性(長期間):</b>	上記の結果より、「区分外」とした。

## 13. 廃棄上の注意:

**残余廃棄物:** 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上処理を委託する。

**汚染容器及び包装:**

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

**14. 輸送上の注意**

**国際規制**

<b>海上規制情報</b>	IMOの規定に従う。
UN No.:	1193
Proper Shipping Name:	ETHYL METHYL KETONE
Class:	3
Packing Group:	II
Marine Pollutant:	Not applicable
<b>航空規制情報</b>	ICAO/IATAの規定に従う。
UN No.:	1193
Proper Shipping Name:	Methyl isobutyl ketone
Class:	3
Packing Group:	II

**国内規制**

<b>陸上規制情報</b>	消防法の規定に従う。
<b>海上規制情報</b>	船舶安全法の規定に従う。
国連番号:	1193
品名:	エチルメチルケトン
クラス:	3
容器等級:	II
海洋汚染物質:	非該当
<b>航空規制情報</b>	航空法の規定に従う。
国連番号:	1193
品名:	エチルメチルケトン
クラス:	3
等級:	II

**特別の安全対策**

危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。

危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。

危険物の運搬中、危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。

食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
移送時にイエローカードの保持が必要。

**処置**

**応急措置指針番号**

127

**15. 適用法令**

**労働安全衛生法:**

名称等を通知すべき有害物  
(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)  
(政令番号 第570号)  
危険物・引火性の物  
(施行令別表第1第4号)  
第2種有機溶剤等



(施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号)

化学物質排出把握管理促進法： 毒物及び劇物取締法：	名称等を表示すべき有害物 (施行令第18条) 対象外 劇物 (指定令第2条)
化審法： 消防法：	「優先評価化学物質」 第4類引火性液体、第一石油類 非水溶性液体 危険等級Ⅱ (法第2条第7項危険物別表第1)
船舶安全法：	引火性液体類 (危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
港則法： 航空法：	施行規則第12条危険物 引火性液体類 引火性液体 (施行規則第194条危険物告示別表第1)
海洋汚染防止法：	施行令別表第1「有害液体物質 (Z類)」

## 16. その他の情報

---

有害性情報、環境影響情報はNITEの区分データを参考・引用した。

GHS分類は「JIS Z 7252(2014)」に従った。

記載内容は当社の最善の調査に基づいて作成しておりますが、記載のデータや評価に関しては必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。

全ての化学製品には未知の有害性が有り得る為、取り扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定下さるようお願いいたします。